

■安定ヨウ素剤事前配布は市長の決断か？



1 市長が決断できたのは、**市民を中心とする「原子力災害対策検討委員会」の提言**にもとづく。
(平成24年10月設立、平成27年6月に提言、現在も継続している)

2 平成25年4月、**兵庫県のシミュレーションで、安定ヨウ素剤服用の国際基準を大幅に上回る放射性ヨウ素が飛んでくる可能性**が示されたことから、**検討委員会では、「備蓄」にとどまらず「事前配布」の声が高まった。**

■ 熱心な市民と専門家の存在



丹波篠山市原子力災害対策検討委員会委員名簿

上紺屋 憲彦	兵庫医科大学特別招聘教授	学識経験者	守田 敏也	フリージャーナリスト	学識経験者
西潟 弘	丹波篠山市自治会会長	自治会関係	田中 光男	丹波篠山市民生委員児童委員協議会副会長	
井上 淳一	丹波篠山市医師会	医療関係	田中 佳祐	丹波篠山市薬剤師会	医療関係
片山 覚	兵庫医科大学篠山医療センター病院長		澤 光吉	丹波篠山市消防団長	消防団
柳瀬 長明	兵庫県丹波県民局県民交流室次長		玉山 ともよ		一般市民
畑 弘恵		一般市民	石田 宇則		一般市民(公募)
居村 愛一郎		一般市民(公募)	神田 幸久		一般市民(公募)
平野 斉	丹波篠山市副市長				

上紺屋教授（副反応の心配はほとんどなく服用のメリットがはるかに大きい）

守田氏（内部被ばくの危険性とその対策の必要性を指摘）

■ 市民の理解

- 1 住民向け学習会（平成26年10月～平成27年3月）
227自治会 約4,300人参加
- 2 消防団研修会（平成25年～平成28年）
延べ約12,000人参加
- 3 原子力防災フォーラム
- 4 職員研修（全職員）
- 5 PTA役員研修 23回 650人参加
- 6 市広報紙

■ 医師会の対応

当初は、「放射能や安定ヨウ素剤について知識がないので、責任が持てない。」など消極的。



兵庫医大上紺屋教授が医師会の先生向け勉強会を開催される。



市の診療所の医師、兵庫医大の医師とともに、医師会から21人の医師に協力していただく。

■ 兵庫県の対応



3 平成28年井戸兵庫県知事

関西電力などが安定ヨウ素剤を備蓄しているので、市町の備蓄や事前配付の必要性は乏しい。

ただし、**住民のため、迅速に対応するため、市町の判断で備蓄や事前配付をされることは認められる。**

■ 市議会（定数18）の対応



賛成 12名 反対 5名

【主な反対意見】

- ① 副反応が出た時には市の責任になる
- ② 他の自治体ではしていない
- ③ 配付について市民の理解が得られていない
- ④ 費用が掛かる
- ⑤ 公費で配分すると、未受領者と不公平
- ⑥ 福井の原発は福島と違い、同じような事故はあり得ない

■ 特に配慮したこと

1 適切な事前配付手続き

- ・ 医師の説明、関与
- ・ 副作用などの説明
- ・ 服用できない人、慎重にする必要がある人への説明

2 安全な保管

3 成長期にある子どもを中心に、3歳から40歳くらいまでの 市民に受領を勧める

4 世帯での代表受領も可能とした

■ハンドブック作成(平成28年7月)



ハンドブック

「原発災害にたくましく備えよう」

- 1 とつとつと逃げる
- 2 場合によって屋内退避
- 3 放射性ヨウ素が飛んでくる24時間以内に安定ヨウ素剤を服用

■ これからの課題など



市民の安心感、防災意識は高まりました。

これからの課題

- ① 原発事故から時間が経つにつれ、危機感が薄れていく
- ② 原発がある限り3年（5年）ごとの更新手続きをしなければならない